

2018年12月期決算説明会Q&A

日時: 2019年2月18日(月) 10:00~11:10

区分	No.	質問	回答
全社	1	中期経営計画の設備投資の770億円に対し、2017年から2020年までの設備投資総額は上回る可能性があるのか。	2017年から2018年までの設備投資の実績額及び2019年の計画を合わせて660億円。2020年にも自動化等の設備投資を実施する考えもありトータルで見ると、中期経営計画を超える設備投資のレベルになる可能性があると考えます。
	2	19年度の設備投資計画の内訳を教えてください。	<ul style="list-style-type: none"> ・精密減速機事業において、自動化の設備投資を実施する計画。市場需要の状況に合わせ能力増強の投資も順次入れる可能性がある。 19年度の精密減速機の定時生産能力は18年のレベルを踏襲する予定(18年の定時生産能力、国内工場が年産68万台、中国工場が年産16万台)だが、市場需要の状況によっては、定時生産能力106万台への拡大に対応していく。 グローバルでの120万台の生産体制構築は2020年~2021年末になる可能性がある。 ・航空機器事業において、一部の設備を導入する予定。 ・OVALO社の量産対応のため設備投資を行う。 ・各工場の生産性向上のための設備投資や老朽化設備の更新も行っていく。
	3	18年度の設備投資の実績が203億円で、期首計画の304億円との差異要因を教えてください。	精密減速機事業において、国内工場に自動化のための設備投資・生産能力増強に向けた建屋及び従業員用駐車場などの設備投資を行った。 18年度は精密減速機の市場需要の停滞があり、生産能力増強のための機械設備導入等を延期したことにより期首計画比で100億円の差異が発生した。
	4	中期経営計画におけるコミットで、15%のROEを上げるが、もし本業でROE 15%達成できない場合、バイバックを通じて15%を死守したい考えを持っているか。	基本的には、各事業の収益力の向上を通じてROEが15%達成すると考える。 バイバックは、株価が大きく下がった場合の株価安定のために行なう株主還元の一つと考える。但し、当社の各事業が成長性を持っていると思うため、将来の成長のため、設備投資を優先する。その次に株主還元だと考える。

2018年12月期決算説明会Q&A

日時: 2019年2月18日(月) 10:00~11:10

区分	No.	質問	回答
CMP セグメント	5	18年度の実績において油圧機器事業の地域別の売上高及び19年の市場見通しを教えてください。	18年12月期実績は、直接売上高ベースで中国市場向け40%、日本市場向け40%、その他地域向け20%。 19年12月期、中国市場はインフラ投資によるショベル需要が堅調、東南アジア市場及び北米市場のショベル需要の好調、国内市場は排ガス規制の駆け込みの反動減から脱出。加えて、ハイエストの買収を通じた製品ラインナップの拡充による拡販効果を期待し、売上高は対前年比で12%増加の見通し。
	6	19年度の計画におけるCMPセグメントの上期・下期のバランスを教えてください。決算短信によると、CMPセグメントの下期の営業利益率が上期より改善する要因を教えてください。	精密減速機事業の19年度売上は、上期で通期計画の40%約270億円程度、下期で通期計画の60%約390億円程度としており、通期では前年比横ばいの見通し。 下期の売上偏重により稼働率も上がり営業利益率が上期より改善する計画。
	7	18年4Q 精密減速機の工場稼働率を教えてください。 19年度に精密減速事業が上期に稼働率低い中に、コスト削減の対策として人員削減をするか。	18年4Qにおいて、日本工場は定時操業でほぼ100%の稼働率だった。 下期に精密減速機の需要回復を期待しているため、一定の人員を維持する必要がある。材料価格は上がる傾向にあるがそれを抑えていくことが重要と考える。
	8	ロボットメーカーの販売動向をどう見るかを教えてください。	お客様であるロボットメーカーの販売動向についてはコメントできない。 19年初めの日本ロボット工業会の見方によると、ロボット市場の成長は前年比で+4%とのこと。米中の貿易摩擦の行き先が不透明だが、中長期に見ると、自動化投資の需要があるため、ロボット市場は成長すると考える。
	9	18年4Q に比べて、19年1月～3月の生産が落ち込んでいるかを教えてください。	足元の状況について、回答できない。
TRS セグメント	10	19年度の営業利益率が OVALOの一過性要因の無くなり、航空機器事業の増収のあるものの、対前年比であまり高くない要因を教えてください。 OVALO減損が19年度に発生する可能性はあるかを教えてください。	OVALO社の一過性要因解消を除いた19年度の営業利益はそれほど低くないと考える。但し、鉄道車両機器事業において収益性の高い中国高速鉄道向けの売上減少による営業利益に対するマイナス影響がある。18年度通期実績の中国市場向け売上高は89億円で、そのうち中国高速鉄道向けの売上が30%、地下鉄向けが70%であった。19年度計画の中国市場向け売上高は80億円で、そのうち高速鉄道向けの売上が10%、地下鉄向けで90%を見込んでいる。 OVALO社の減損は18年度のみで19年度には見込んでない。
	11	777Xの量産開始に伴う費用を19年度の計画に織り込んだかを教えてください。	具体的な費用の折り込み状況を差し控えていただきたい。777X量産の立ち上げ時の営業利益は赤字ではない。但し、生産数量がまだ小さいため、収益性の向上に対する貢献は限定的と見込んでいる。
MFR セグメント	12	19年度の包装機事業の増収によるセグメントの増収だが、営業利益率が前年比で下がった理由を教えてください。	包装機事業における製品ミックスの影響による。